

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①授業規律を確保し、わかる授業の実践により学習意欲を育成する。
- ②学習習慣を定着させるとともに、効果の上がる勉強方法を身につけさせる。
(家庭学習の充実)

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 教務主任 百々 佳代	委員	1学年主任	鳥澤 和佳
		2学年主任	丸岡 弘典
		3学年主任	松岡 恵美

校長

原 清二

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎・基本の知識や技能を問う問題に対しては、真面目に取り組むことができる。 ●基本事項を活用する問題や、自分で考えて表現しなければいけない課題に対しては、諦めてしまいがちである。	①授業に集中して取り組み、基礎・基本的な知識・技能を身につけている。 ②基礎・基本の知識を生かし、活用問題や応用問題にも積極的に取り組むことができる。	①知識・技能の定着の度合いを定期的に確認する(小テスト等)。定着が不十分な生徒については、個別に指導していく。 ②家庭学習を毎日の生活の中に定着させ、個人の学力に応じた課題を設定する。応用問題にも適宜取り組ませる。	・朝学習や授業中に適宜小テストを実施し、定着度の確認をする。個人の到達度に応じた指導を工夫する。 ・家庭学習調査(星取り表)を年間を通じて実施し、意識づけをはかる。その結果を有効に活用する。	・知識・技能の定着や基礎基本の内容を定着させるために、小テスト等を実施することができた。引き続き継続していく。 ・テスト期間以外での、日々の生活の中で家庭学習を定着させることが難しい生徒が多い。	・学力の2極化傾向があり、引き続き基礎基本の定着を目指していく。定着度に合わせて、応用問題や活用問題にも取り組ませる。 ・学習方法がわからない生徒、家庭学習が定着していない生徒の割合が高いため、個に応じた具体的なアドバイスをする。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○簡単に正解を求めることができる問題については、意欲的に取り組むことができる。 ●自分の考えをわかりやすく伝えたり、自分で判断して表現・説明したりすることに課題がある。	①自分の考えをわかりやすく説明したり文章表現したりすることができる。 ②自分なりの考えをもち、他者と意見交換をしたり、コミュニケーションをしたりする中で、学びを深めることができる。	①自分の考えを説明したり、他者と意見交換したりする場を授業の中で設定する。 ②考えを説明するために必要な語彙を増やす。読書週間を設定し、多くの言葉や文章に触れることができる機会を増やす。	・小グループで話し合い活動をする機会を設けたり、自分の意見を短い時間で発表したりする機会を意図的に設定していく。 ・テスト後1週間、読書習慣を設定し、語彙獲得の手立てとする。	・各教科や学級活動の中で、話し合い活動やグループでの活動を取り入れることによって、表現力が少しずつ身についてきている。 ・語彙の習得には個人差がある。引き続き読書活動を推進していく。	・ICTを有効に活用しながら、表現活動の活性化を図っていく。 ・語彙を増やすための手立てを工夫し、できるだけ多くの語彙を習得させていく。学校生活のあらゆる場面で自己表現できる生徒の育成を目指す。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○定期テスト前などの与えられた課題については、真面目に取り組むことができる生徒が多い。 ●自ら課題を見つけて積極的に取り組む姿勢や将来への展望をもって学習に取り組む姿勢に課題がある。	①目標や課題意識を持って意欲的に授業に取り組むことができる。 ②将来への展望を持ち、自分なりの目標を設定して学習に取り組むことができる。	①学習計画を立てさせ、個別にアドバイスをしていく。 ②「問い」が生まれる授業を展開するとともに総合的な学習の時間の中でも、外部機関との連携を通して、キャリア教育の充実を図り、将来への展望を持たせる。	・テスト期間中に星取り表を活用し、自分で学習計画を立てさせる。 ・発問を工夫し、生徒の思考を促すような授業展開をする。自分の進路や将来の展望について考えさせる機会を設ける。	・自分の克服すべき学習課題にどう向き合っていくかを考えられる生徒が少ない。個別指導が必要な生徒が多い。 ・総合的な学習の時間を通じて、様々な視点から物事を捉えられるようになってきている。自分が学んだことを自身の生活にどう活かしていくかをさらに考えさせたい。	・生徒自ら目標を設定し、自分の学習課題に対してどのような学習方法が効果的なのかを考えさせ、個々にアドバイスをする機会を設定する。 ・授業での発問を工夫し、さまざまな観点から広い思考ができるような授業展開を継続していく。

令和6年度 学力向上ロードマップ

